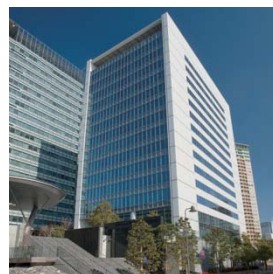


株式会社日立情報システムズ様

ConnectONEへの高い評価に嬉しい悲鳴
SIとして、システムの社外への販売も開始

ご購入ライセンス: 350名

グループウェア: MS Exchange2003

日立情報システムズは、言わずと知れた国内有数のシステムインテグレータだ。当然、社外から社内の情報システムへのリモート接続のニーズは高く、早くからVPN等の環境を整えてきた。自社の取り扱い製品にVPNがあるのだから、当然の流れでもある。しかし、ここ数年、日本でも情報漏洩事件が増加しており、日立情報でも様々な規制を検討することになった。その結果、リモートアクセス時の二要素認証やVPNの利用はもちろん、暗号化されていないPCの持ち出しも禁止となった。

それでも運用担当者など、PCを持ち歩かなければ仕事にならない職種は確実に存在する。しかし一方で、外回りの営業マンなどは、メールチェックとスケジュール管理さえできれば良いケースも多い。そのためだけに、厳重なセキュリティを施したノートPCを用意し、持ち歩くのは大変だ、という声もだいたい前から出てはいた。

今回取材させていただいた情報基盤開発センタは、一般の企業の情報システム部に相当する部署だということだが、センタでも、こういった声に配慮して、数年前から社外からのアクセス手段として、携帯電話の利用を検討していた。しかし、当時の携帯電話はまだ画面も小さく、使い勝手の面でPCに大きく劣っていたほか、PCと同レベルのセキュリティをどう確保するか、通信コストはどのくらいかかるのか等の懸念事項があつて、導入には至らなかったということだ。

複数の候補からConnectONEを選択

状況が少し変わってきたのが06年末頃。携帯電話の機能はどんどん充実し、社内システムとの接続や、認証に関する製品も複数発表され、本格的な検討を始められる環境が整った。当初は社内にサーバーを置かず、ASPサービスを使って運用を開始することも考えたが、導入時のコストが抑えられる反面、利用ユーザー数が増えてくると逆に割高となる点や、システムがブラックボックスとなることによる不安などがあり、利用は見送った。ConnectONEを導入したのは、セキュリティと同時に、カスタマイズへの対応や将来の対応力の高さを評価して選定した結果だ。

決め手はセキュリティと運用コスト

今回ConnectONEと共に導入を決めた(株)アイディーエスのMITS OTPは、携帯メールアドレスをうまく使って二要素認証を実現している点がユニークだ。

メールアドレスで運用できるということにはもう一つ重要な利点がある。端末番号での認証は、機種変更時や、海外出張などのために一時的にレンタル携帯電話を借りるような場合に、いちいち認証設定を変えなければならない、管理端末が多いと運用に手間がかかるのだ。メールアドレスなら、こういった問題は一切ない。

ConnectONEは単体でも十分なセキュリティを確保できているが、必要に応じてサードパーティ製品と柔軟に組み合わせることができるのも、大きな強みである。

柔軟なカスタマイズ性も大きな魅力

ConnectONEは自身でも認証基盤を持っているが、今回はMITSとの連携により、日立情報からの要求に添えている。こういったカスタマイズに柔軟に対応できるのも、ConnectONEの大きな魅力だ。

基本設計の良さと、自社内で開発しているが故の小回りの良さが柔軟性を生んでいるのだ。MITSだけではなく、他のセキュリティツールとの連携にも全く不安はない。

システム構成

今回導入したシステムは、ConnectONEとMITSの2台のサーバーからなる。

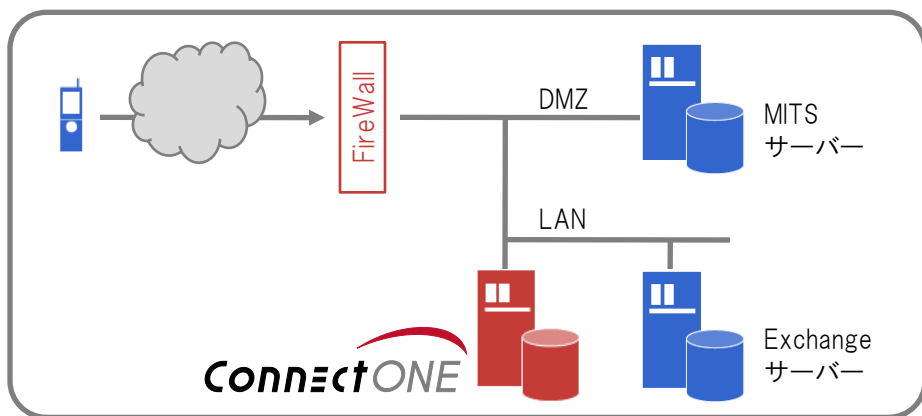
ユーザーはまず、携帯電話のブラウザからDMZに設置されたMITSのサーバーにアクセスし、あらかじめ決めてあるパスワードを入力する。MITSのサーバーはここで、そのユーザーのためだけ、かつ短時間のみの有効な認証用のワンタイムURLを作成し、携帯メールでユーザーの携帯電話に送信する。

ユーザーはメールを受信した後、そのURLにアクセスすると、ユーザーの真正性が証明されるというわけだ。この時点でConnectONEに接続されるが、ConnectONEとの間ではシングルサインオンが有効になっているため、再度の認証は必要ない。ConnectONEはExchangeサーバーにアクセスし、画面を携帯ブラウザで表示できる形式に変換する。

株式会社日立情報システムズ

設立	1959年6月15日
本社所在地	東京都品川区大崎一丁目2番1号
資本金	13,162百万円
事業内容	システム運用 アウトソーシングサービス ネットワーク/セキュリティサービス ASP/MSPサービス
	システム構築 公共・自治体ソリューション 企業情報システム ネットワークシステム インテグレーション
	ソフトウェア開発 機器・サプライ品販売 各種ハードウェア販売 コンピュータ関連サプライ品販売
売上高 (2007年度)	連結 185,856百万円 単体 176,393百万円
執行役社長	原 巖
社員数	連結 6,990名 単体 5,035名

日立情報システムズ様システム概要



ほとんどノートラブルでサービスイン

06年末から検討を開始して、07年の春にConnectONEに決定し、秋にはテスト運用が始まった。本サービスのサービスインは08年2月である。システムの導入に携わった、開発グループの菅原氏は「導入もテスト運用も非常にスムーズでした。」と言う。

見込み違い?の高評価

ところが今、菅原氏の頭痛の種になっているのが、ユーザー数の増加なのだ。システム導入時には、実際にどれだけのユーザーに使ってもらえるかわからなかったため、最小限の規模で導入して、反響を見ながら導入範囲を広げていくつもりだった。そのため、正式な社内への告知も行っておらず、一部のテストユーザーにしか知らせていない、いわば「知る人ぞ知る」サービスなのだそう。

ところが、世は情報化時代。便利なサービスであれば、周りが放っておくはずがない。あちこちの部署から、利用に関しての問い合わせが来始めているのだという。テストユーザーから利用を開始したとたんに、口コミで広がったようだ。ユーザー数は増加の一途をたどり、サーバーの二重化など、信頼性への検討が必要になってきている。

トップダウンで導入するサービスが、現場に受け入れられずに頓挫する、という例はよく見かけるが、こういった、草の根から広がっていくサービスは本物と言って良いだろう。「見込みを誤った、ということですよね。」と菅原氏は笑うが、うれしい見込み違いというべきだろう。



経営戦略統括本部事業開発本部
情報基盤開発センター開発グループ
菅原 平氏

日立情報自らも外販

日本有数のシステムインテグレータである日立情報が自社利用のために、吟味に吟味を重ねたソリューションである。売れないわけがないではないか。現在、日立情報でMicrosoft Exchangeを使ったアウトソーシングサービスを展開している、アウトソーシングセンター事業部で、社外へのサービス提供を行っている。

日立情報は首都圏に何カ所か拠点を持っているが、今回の社内用システム導入時に、情報基盤開発センターがある拠点では無く、上記のアウトソーシングセンター事業部がある拠点にConnectONEのサーバーを設置しているのである。かなり初期の段階から外販を視野に入れていたことを伺わせる話だ。

「自分たちが使ってみて、これは便利と思えば、外販を考えるのは、システムインテグレータとしては自然な発想だと思います。ConnectONEは、日立グループのセキュリティ基準もクリアしており、安心して販売することができますと考えています。」

将来への展望

日立情報システムズの全社員約6,000人のうち、会社契約の携帯電話を持っているのが約2,000名。情報基盤開発センターでは、このうち半分近くがConnectONEのポテンシャルユーザーと見ている。現在のユーザー数はまだ少ないが、前述のように、口コミで問い合わせは増えてきている。

「今はメールチェックとスケジュール管理がメインですが、幹部ユーザーからは、業務ワークフローシステムへのアクセスを求める声も出ています。」承認などのワークフローシステムで、処理が滞ると一大事である。これが携帯電話から手軽に行えれば、業務効率は一気に上がるだろう。

しかし、ワークフローシステムはExchangeではなく、Webサービスで構築されている。

菅原氏は、「ワークフローシステムへの対応の際には、またコネクワンさんにいろいろご対応いただく必要が出てくるかと思いますが、不安はありません。」ということだ。

常によりよいアクセス環境を模索し、良いものが見つければ自ら販売してしまうという、柔軟な発想をもった日立情報システムズから、今後も目が離せそうにない。

携帯電話からのアクセス画面

<p>[メインメニュー]</p> <p>メインメニュー</p> <ul style="list-style-type: none">[1] 受信メール[2] メールボックス[3] 新規メール[4] 予定表[5] 他人の予定[6] アドレス帳[7] 仕事・メモ[8] 共有ファイル	<p>[メール一覧]</p> <p>本日の受信メール</p> <ul style="list-style-type: none">■未読・既読メール 山本太郎 <p>□冗長化負荷分散 Akiko Akita</p> ■RE:携帯端末ID認証 yamamoto@xxx.co.jp	<p>[メール本文]</p> <p>メール本文</p> <p>[件名] 冗長化負荷分散 [送信] 山本太郎 [宛先] yama@xxx.co.jp [日時] 10/17/ 13:58 [添付] c1v2.doc</p> <p>ConnectONEエンタープライズ構成についての資料です。ロードバランサーを使用すること</p>	<p>[ドキュメントビューワー]</p> <p>c1v2.doc</p> <p>ConnectONEは、冗長化構成および負荷分散構成に対応しています。これにより数万ユーザー規模の使用が対応可能です。これはカスタマイズ柔軟性とともConnectONEの大きな特長</p>
<p>[予定一覧]</p> <p>本日の予定</p> <ul style="list-style-type: none">C1導入検討 09:30-10:00Exchange運用会議 13:00-14:00コネクワン訪問 15:00-16:00	<p>[予定詳細]</p> <p>メール本文</p> <p>[件名] C1導入検討 [開始日時] 2006/10/17 09:30 [終了日時] 2006/10/17 10:00 [場所] 会議室D [作成者] 山本太郎 [出席者] 秋田昭夫 [詳細]</p>	<p>[アドレス帳検索]</p> <p>アドレス帳検索</p> <p>[名前]</p> <p><input type="text"/></p> <p><input checked="" type="radio"/> クロームアドレス帳 <input type="radio"/> 個人アドレス帳</p> <p>検索</p>	<p>[アドレス詳細]</p> <p>アドレス帳データ</p> <p>[氏名] 山本太郎 [メールアドレス] yamamoto@xxx.co.jp [会社TEL] 03-xxxx-1234 [携帯TEL] 03-xxxx-7890 [会社] 株式会社コネクワン</p>

お問い合わせ

ConnectONE

株式会社 コネクワン

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-8-1 KDDI大手町ビル 16F

TEL 03-3387-5099 FAX 03-6368-6912

Mail:contact2008@connectone.co.jp

http://www.connectone.co.jp/